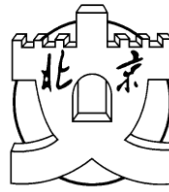


# かささぎ



北京日本人学校  
学校通信第11号  
令和3年3月5日  
校長 栗本 和明

## 問い「北京で学ぶ子供は幸せか？」

校長 栗本 和明

平成30年（2018年）4月に着任以来、わたしは上記の「問い」を持ち続け、折に触れ考えてきました。「問い」に答える形で、以下、綴ってみます。

着任して間もなく、前事務局長による不適正な会計処理問題が明らかになりました。連日深夜に及ぶ理事会、会計規則の見直し、臨時保護者説明会開催、校内コンプライアンス体制構築…と、学校の信頼回復に注力しました。そのころ、わたしは胸中で「子供たちに、良い学校ですよ。安心して登校してください、と胸をはって言えなければ上記問いの答えは『No 幸せとは言えない』となってしまう。正しいことをきちんと行う学校にしなくては」と考えました。幸いなことに、学校への金銭的損害はなく、その後、透明性があり公平、公正な公募及び面接を経て、倉片事務局長が着任しました。学校は現在も適正な会計処理を行うよう、様々な方策を実行しています。

その後、校車化（スクールバス導入）に向けた取り組みをスタート。また、スクールカウンセラー任用のための様々な手続き的課題の解決、保健主事ポストと教務小部長の新設及び崔事務長ご引退に伴う事務局体制見直しなどの校内体制強化、外国語会話講師との契約（中国の法に照らした正しい契約）、学校周辺の関係機関や当局との連携強化（麗都ビジネス区、将台警察、文化中心ビル、東方金融中心ビル、3e幼稚園、朝陽区教育委員会など）、国際理解教育の新たな展開（3e国際学校の国際ドッジボール大会への新参加、君誠国際学校との交流を新たに開始、3e国際幼稚園との交流復活、月壇中教師と本校教師の「交換授業研究」の挑戦など）について進めることができました。「北京でしか体験できない、北京だからこそ」という学習の提供を行うこと。子供たちが困った時に、カウンセリングを受けられること。本校の取り組みを、多くの中国の人に理解してもらうこと。子供たちが国際感覚を磨く機会を持つこと。これらを推し進め具現化することは、子供たちが「幸せ」に近づく道筋だと考えました。

昨年の春節休み以降は、コロナ禍に翻弄されました。映像による卒業式、オンライン授業への移行、オンラインライブ入学式など、これまで経験したことのない新しいことへの挑戦の日々でした。2学期以降、子供たちの登校が再開し、教員も本当にうれしそうでした。子供たちも学校で学べる「幸せ」をかみしめている様子でした。全校遠足にかわる新しい行事の創出、オンライン社会科見学の挑戦もしました。朝陽区教育委員会の担当課長さんに直談判し「日本の教育活動では現地に行き行う学習：校外学習は必須である」ことを説明。認められなかった「校外学習」について「実施してもよい」との返答を得ることができ、その後市内各所に出向いての学習が実現しました。わたしも小2「ポプラ絵本館」や小4「ごみ処理発電所」、小5「パナソニック工場」「第一三共工場」、小6「盧溝橋と周口店遺跡」などの引率をしました。現地に到着すると、子供たちは五感を働かせて熱心に学ぶ姿を見せました。とても楽しそうでした。北京ならではの体験は本当に大切だと実感すると共に「北京で学ぶ子供は幸せだ」と確信しました。

3年間の派遣期間が終わります。第17代となる次の校長にバトンをつなぎます。適正な会計処理に基づく学校運営、少人数指導による一人一人に寄り添った支援体制維持、優秀な教員の確保、どのような状況にあっても「子供の学びを止めない」取り組み、小中併設校の良さを生かす活動、北京ならではの学習の創造、カウンセリング体制の堅持などです。

来年度はいよいよ「1人1台タブレット」の新しい教育活動をスタートさせます。今後も、北京で学ぶ子供たちが幸せでありますように。

## 卒業を前にして

## 小学部 6 年生

この1年で子供たちは、大きく成長しました。学校に通えないからこそ、学校で過ごす時間がどれだけ大切か、実感した人が多かったのではないのでしょうか。そのため、自ら考えて積極的に行動する子供が増えました。そして、6年生23名が、残り4日ほどで卒業を迎えようとしています。

北京在住の20名は、1月にJALによる「空育」、2月にオンラインでCANONによる「キャリア教育」を通し、働くということや社会に向けて行動を起こす意義について学び、考えを深めることができました。コロナ禍で、ついできなかったことばかりに目が行きそうになる中、企業の方々の協力のもと、子供たちが“これから”に目を向けられたのは、本当に意味のあることだったと思います。



RADWIMPSの「正解」という曲に  
このような歌詞があります。

“ああ答えがある問いばかりを教わってきたよ  
だけど明日からは  
僕だけの正解をいざ 探しにゆくんだ  
また逢う日まで “

6年生全員が、与えられた正解だけを探すのではなく、自ら求めて学び、自身の可能性を伸ばられるよう、そして、小学校生活を終える最後の一步が、新たなステージに踏み出す最初の一步となるよう、この教室を巣立っていくその日まで指導に努めていきます。

最後になりましたが、いつもどんなときも、子供たちの味方となり支え続けてくださった保護者の皆様、本当にありがとうございました。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

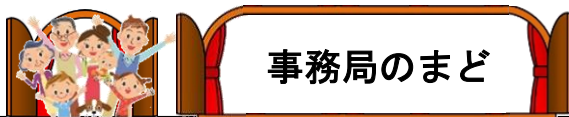
## 卒業を前にして

## 中学部 3 年生

4月、オンラインで始まった学校生活。画面上ではありますが、休校以来みんなで顔をあわせたことで嬉しそうな表情だったことを覚えています。日本と北京、それぞれが異なる場所からオンライン授業を受け受験への不安をもちながらも共に励まし合いながら頑張りました。オンラインによる学校説明会や隔離のある受験前の時期など大変なことも多かったですね。国際交流弁論大会や1年生歓迎集会の発表では、3年間で培った発想力やチームワークを発揮してさすが3年生と思われるものを作り上げました。

コロナ禍で思うようにいかないことが多かった1年間でした。みなさんはその中でできることを考え、自分たちのためにも学校のためにも頑張り、しなやかなたくましさをも身につけることができたことと実感しています。この経験を糧に新たな場所でもどうしたらよりよくなるのか、自分にできることは何かを考えて行動できる人であってほしいと思います。

普段通りにいかなかった学校生活を、家庭の側から支えていただいたおかげで卒業を迎えることができました。保護者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



### 事務局のまど

昨年12月号でお伝えした日本での「GIGA スクール構想」に呼応するかたちで、本校でもこれまで度々問題となっていた校内Wi-Fiについて、ここ数か月で改善のための措置を進め、今般、一定の速度に達していることが確認できました。校内で一斉に負荷のかかるアップロード/ダウンロード作業をしたり、近隣で極端なケースがあったりしない限りはオンライン授業で必要な速度は確保できそうです。また4月以降、教室内で子供たちがICT機器を利用する計画もあり、そのためにもWi-Fi環境の整備は急務でした。コロナが原因で予想もしていなかった「GIGA スクール構想」の実現前倒しです。

今日3月1日、約1か月ぶりに子供たちが登校してきました。3学期はあと数日ですが、来年度以降、北京日本人学校が提供できること、いろいろありそうで、可能性は無限です。1年間ありがとうございました。(事務局 倉片)



## たどいま 何人?

小学部

令和3年度3月5日現在

	男子	女子	合計		男子	女子	合計
1年	12	10	22	4年	11	16	27
2年	17	22	39	5年	7	13	20
3年	14	13	27	6年	12	11	23
				小総計	73	85	158

中学部

1年	7	7	14				
2年	12	7	19	中総計	25	20	45
3年	6	6	12	総合計	98	105	203